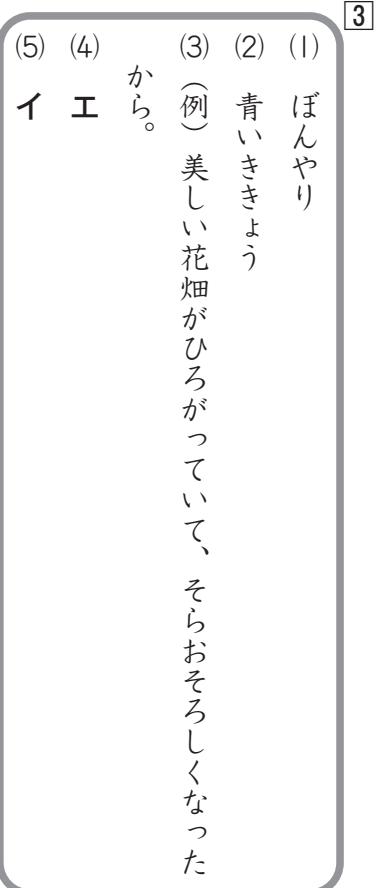
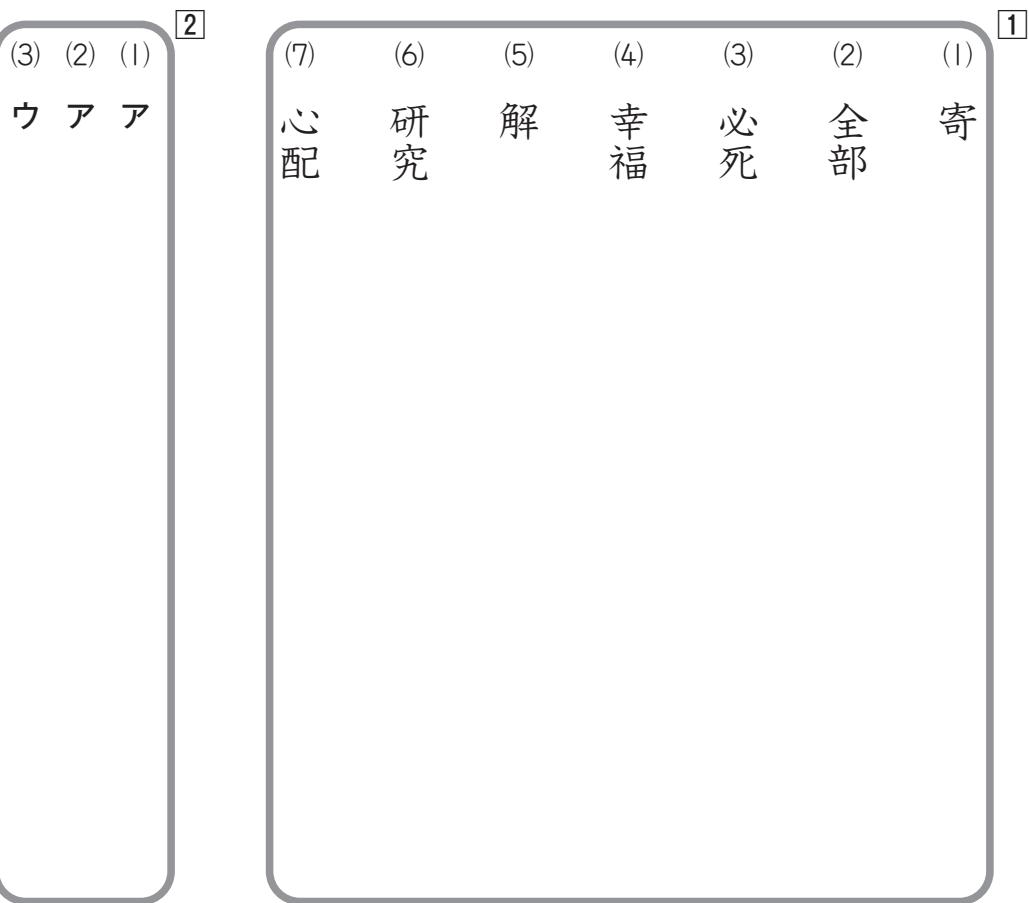


1 物語



解説

- (1) 「鉄砲をかついで、ぼんやり歩いていました」とあり、考
えごとをしているうちに、歩きなれているはずの山道でま
よつてしまつたことが読み取れます。
- (2) ひろびろとした野原に、一面の青いききょうの花畠が続
いていることがすぐあとに書かれています。今まで、ここ
は杉林のはずだつたので、おどろいて立ちすくんだので
す。
- (3) このあと、「そらおそろしい」という気持ちを表すこと
ばを用いてまとめましょう。
- (4) 「このままひきかえすなんて、なんだかもつたいなさすぎ
ます」と思うことが主な理由なので、工が適切です。
- (5) 「ぼくの目のまえを、チラリと、白いものが走つたので
す」とあり、イが合います。アは「立ち上がりななかつた」、
ウは「ききょうが白くなつた」、工は「ボールになつた」
がそれぞれまちがいです。

2 物語

(3) (2) (1) **ア ウ イ**

(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) **評 判**

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) **投 苦 血 起 頭 颜 評 判**

3

(5) (4) (3) (2) (1) **エ イ**

(例) 夜に空中を飛び、体が真っ黒だから。

『解説』

(1) キキの乗っていたほうきは、地面にまっさかさまに落ちています。キキと、キキのスカートにつかまっているジジも地面に落ちうなので、ジジは悲鳴をあげたのです。

(2) 「また」は、これまでにも男の子が同じようなことを言つたことを表します。「いいかげんにしなさい」には、男の子が言つていることが正しくないという気持ちがこめられています。

(3) 男の子は「だって、まっくろじやないか」と言つています。また、こうもりが夜に飛びまわる動物であることも理由のひとつと考えられます。

(4) この場面が夜であることが、「パジャマを着た小さな男の子」「ぱーつとあかりがひろがり」などから、また男の子がこうもりを話題にしていることから読み取れます。「年ごろはキキと同じぐらいでしようか」とあることから、キキと女の子のはじめて会ったことがわかります。

(5) ジジはキキに向かって「こっち、こっち、枝えだをつかんで」と言つてるので、アが適切です。

(3) (2) (1) イ ウ ア

2

(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 像 複数 程度 歴史 建設 技術

1

貿易

3

(5) (4) (3) (2) (1) 豊かな水のあるところ

水のありがたさ

(例) 長さ一二キロ、一〇キロくらいで橢円形の盆地。

『解説』

(1) 直前に書かれている日本の降水量と、それによつて水が豊かであることから考えます。

(2) 人間の生存にかかわるほど降水量の少ないギリシアとは反対に、降雨にめぐまれている日本では、水のことなどほとんどの人が考えていなことを表現する部分をさがします。

(3) 「この盆地は、だいたい」で始まる文をもとにまとめます。

(4) 「緑したたる沃野」が広がるのは、文章後半に書かれるクレタ島のラシチ盆地です。

(5) イはラシチ盆地の内容に合っています。アは「どこで も」、ウは「冬にはまったく雨が降らない」、エは「発電などの生活に利用している」がそれがあまりです。

5 説明文

(3) (2) (1)	ア ウ ア	2	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	正 確	1
	横断			地元	観測	便利	記録	質			

『解説』

(1) ①は、葉の落ちない針葉樹しんじゅのうちの例外をあげています。

す。②は、特別なけしきを見せる山の具体的な例をみちびいています。

(2) 「炭焼きにはさまざまな木がつかわれた」とあり、「さまざまな木」には針葉樹も広葉樹もふくまれるので、葉の色が変わる木も変わらない木もあり、そのために秋には緑もふくめて色とりどりになるのです。

(3) 北山杉は、床の間に使う床柱とこを作るために育てられたことがこのあとに書かれています。

(4) 北山杉を育てるくふうとして、「たえずえだうちをかさね」ことがこれよりあとに書かれています。

(5) 「むかしから吉野権現よしのごんげんへおまいりをする人たちは、さくらをおそなえする習慣かんがあつた」とあり、ウが適切てきです。アは、から松は広葉樹ではありません。イは、吉野山にはさくらが多いけれど、山全体の木がさくらかどうかは文章からは読み取れません。エは、吉野山ではさくらが多いので

(1) ウ (2) イ
(3) 床柱とこをつくるため
えだうち

3

(1) ウ (2) (例) 炭焼きには針葉樹も広葉樹もどちらも使われたから。
床柱とこをつくるため
えだうち

ウ

針葉樹が多いとはいえない。

7 詩

(3) (2) (1)
ア ア イ

2

(7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)
豊 鉄 打 地球 迷 鳴 落石

(1) 落石

1

(4) 深呼吸こきゅうをするとき、「あの山を越こえて行く日のこと」を考えています。ここでの深呼吸は、「あの山を越こえる」、つまり大人になるときを想像して、強く生きていく、という心がまえを自分なりに持とうとする動作です。

(2) おじいちゃんから「人生」ということばを聞かされて、おもわず「人生か」とつぶやいたことで、これまであまり考えたことのない自分のこれからの方が一度に心におしよせてくるような気持ちになっています。これも大人への第一歩だといえます。また「背せ丈たけがのびて」は、ほんとうに身長が高くなつたのではなく、そのような気がする、つまり大人になつたようを感じるということです。

(3) 困難こんなんを乗りこえて、子どもから大人へと成長するときのことです。

解説

(4) (3) (2) (1)
ウ エ イ・エ 別の山

3

(1) 「山また山」は、どこまでも次々と山が続いていることです。一つの山をこえても、また別の山があらわれて、終わることがありません。

(3) (2) (1)
アイア

2

(7)
区別(6)
風花(5)
戸外(4)
破(3)
老(2)
輸送(1)
経験

1

(5) アは、母とはぎやくです。イは、新聞が毎日届くので大人をうらやましいと思うのは、「私」自身はまだ新聞を読んでいなかつたからだと考えられます。ウは、母は素直な子になることを望んでいましたが、その通りになつたかどうかは書かれていません。エは「私が本好きになつたのは、まちがいなく母を見て育つたからだ」に合います。

(1) ほかのお母さんのようにたくさんのことを見ます、ただ「素直な子」になつてほしいことだけを望んでいます。

(2) 母自身が早口なので、同じように早口になつてほしくないなど、自分の欠点を見習つてうけついでほしくないと思つていて、イが合います。

(3) 母の「私が早口だつたから、諭^{さと}したわ」のことばから、早口と本を読むスピードについてまとめます。

(4) 何かをとにかく読んでいる状態を表すことばをさがしましよう。

(5) (4) (2) (1)
イ
エ
活字中毒

3

解説

(例) 早口でしゃべらず、本もゆっくり読むような子どもに育てるという方針。

子どもに高望みをしない

12 隨筆

(1) 機械

(2) 過

(3) 物資

(4)

(5) 羽子板

(6)

(7) 弁護士

(3) (2) (1)
ア ウ ア

「この学齢直前の幼いころのことを、私は案外と覚えて
います」とあり、その覚えている内容には、幼稚園での出
来事やトマトをもいだことなどがあります。アの「た
よつてばかりいた」、ウの「はずかしい」、エの「なつかし
い」はそれぞれ書かれていません。

(2) 幼稚園に通いはじめて三日目にけんかさわぎがありましたが、けんかそのものよりも、先生からわけも聞かれずに叱られたことが「登園拒否」の直接の理由といえます。

(3) 「母は認めて許してくれました」とあります。

(4) 母が菜園の持主に謝ったのは、「私」が大将になつて、まだ青いトマトをすべてもぎとつてしまつたことであり、幼稚園に行かないで、家にいることではありません。

(1) ほんどの子が幼稚園に行かずに家にいた時代だったことを読み取りましょう。その子たちと同じであつたことが「私も」に表れています。

100

(5) (

許してくれた。

(3) (2) (1) (例) 幼稚園に行かずに家にいたこと。
（例）私の申し立てを認めて、幼稚園に行かないことを母が
工